



令和7年9月30日(火)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
4年 学年便り 10月号

学年の折り返しを迎えて

早いもので、4月から始まった4年生としての生活も、半分か過ぎようとしています。前期を振り返ってみると、運動会などの様々な行事を通して、子どもたちは大きく成長しました。特に、初めての経験となったグループ活動・本キャンプでは、ファイルに事前に目を通した時に分からないことを上級生に確認したり、時間を守ろうと時計を見て仲間の声かけたりする姿をたくさん目にすることができました。どの姿も「繋～思いをつなぎ、仲間とつながり、これからへとつなげていく～」という重点に向かっている姿でした。夏休み中の日記を読んでいると、ある子は「来年のキャンプにはじめて参加する3年生のために今年のキャンプをいかしていきたい」と下級生を支える立場になる自覚やそのために今から意識できることを考えているのだと感じました。こうした一つひとつの経験がその子のこれからの生活へとつながっていくことでしょう。

これまでの経験を生かし、つなげていこうとする姿は、グループ活動・本キャンプだけではなく、相棒清掃が始まり、これまでの経験を生かしながら、相棒の3年生に掃除の仕方を教えたり、相棒と相談しながら役割分担を決めていたり、昨年とは違う上級生という立場で向き合っています。そして夏休み前に植えたサツマイモの畑が、夏休み明けに雑草で生い茂っていることに気付いた子どもの中には、休み時間になると進んで畑に行き、畑がキレイになるまで何日も草抜きをしている姿が見られました。相棒清掃やサツマイモを育てることを通して相棒との仲を深めていこうとしています。

つどいに向けた話し合いも各学級で進み始めています。ある学級では「私たちが伝えたい○○(つどい当日までお楽しみに!)」ってさ、こんなことしたら伝わるんじゃない?」「それならこういう伝え方もあると思うよ」「こういうテーマもクラスの良さだと思うんだけど」と一人ひとりの子がここまでの学級の歩みを振り返りながら思いを語り、テーマや伝え方など話し合いを重ねています。また、6年生のつどいを見た後には、「スクリーンに文字が映っていたから分かりやすかった」「きっとこういうことを伝えようとしてたと思う」など上級生がつくりあげたものから感じたことや思ったことを伝え合いながら自分たちのつどいを見据えた振り返りをしています。

日中はまだ汗ばむ暑さですが、朝夕は過ごしやすくなり、日もだんだんと短くなってきました。季節の移り変わりを感じるこの時期は、学年の折り返しとなります。子どもたちが半年間の自分を振り返ってできるようになったこと、また今後の半年間で努力したいことを整理し、後期から良い再スタートをきれるように支えていきたいと思えます。

